こま回し、たこ揚げ、かるた。昔懐かしい遊びですが、時代の移り変わりとともにその遊び方も変わってきています。

２０１９年は新たな時代への移り変わりの年です。長年、正月を賑わせた昔ながらの「正月あそび」を紹介します。

# 昔ながらの 正月あそび

◀新宇和島かるた

平成17年に１市３町が合併して現在の宇和島市が誕生したことを記念して製作されました。

本市の伝統文化や特産品などが題材となっており、年末年始に帰省した家族・友人らと一緒に、ふるさとを見つめ直す機会に最適です。

【料　金】1,000円

【問合先】商工観光課☎49－7023

## 宇和島こま

宇和島には、数軒ではありますが、こま作りに携わる人がいました。使用する木材は作る人それぞれに違いがあり、ずっしりと重くて硬く、強いこまを求めて子どもたちがずらりと店先に並ぶ光景があったそうです。

手に入れたこまで主に行われていたのは、「ぶつけごま」という遊び。子どもたちは手に入れた自慢のこまを片手に、公園などに集まり勝敗を競いました。

宇和島で作られていたこまは、柿やカブのようにずんぐりとした形をしており、ぶつけて勝敗を競うため、重心が低く重いのが特徴です。

「ぶつけごま」は「けんかごま」とも呼ばれ、当時の子どもたちに親しまれていました。

## ■ぶつけごま

５～10人ほどが集まり、こまをぶつけ合って生き残りを競います。強さにより格付けされ、格付けが下の人から順番に回していきます。横からぶつけることもありますが、基本的には、こまを上に振りかざし、ボールを投げるようにして先に回っているこまに向かって思いきり投げつけます。はじき飛ばされたり、止まってしまうと負けになります。

30年前まで父がこまを作っていましたが、今はもう作っておらず、残っていたこまも探していた人たちに配ってしまったのでなくなってしまいました。

昔はたくさんの子どもたちがこまで遊んでいました。中でも、「ぶつけごま」が主流でした。

遊んでいるうちに傷がついたり、擦り減って軸がぶれてしまい、回りが悪くなってくるので自分たちで芯を取り替え、より強いこまにしていました。それでも負けることもあり、悔しい思いをすることも多々ありました。今となっては懐かしい思い出です。

薬師神さん

## 技に挑戦！

いろいろな技にチャレンジしてみましょう。楽しみの幅が広がります。

レベルアップ

体が覚えてる！

### ツバメ返し

「今はもう無理だ」といいながらも…

▲下手投げでこまを投げ、手元に戻ってきたところを手のひらでキャッチします。

### すくいあげ

▲投げたひもをこまに巻きすくい上げ、手に乗せる。

## 遊びでつながる

昔の遊びも、少しずつ形を変えながら今どきの遊びに変わってきています。昔の遊びそのものは知っているけれど、当時の子どもたちが惚れ込み楽しんでいた、昔あそびの楽しみ方は時代の移り変わりとともに薄れつつあるのではないでしょうか。

平成最後の正月、今どきの遊びで盛り上がるだけではなく、年末年始に帰省した友人や親戚、家族などと一緒に、昔の遊びに触れてみませんか。地域ごとの違い、家庭ごとに違う遊びの楽しみ方を見つけることができるかもしれません。

▶小学生たちに昔あそびを体験してもらうため、公民館などでは老人クラブなどと協力して多世代交流の機会を設けています。